

厚真町体育協会が設立50周年

記念行事で8競技500人が参加しスポーツ大会

厚真町体育協会（渡部孝樹会長）が今年50周年を迎え、記念大会として9月5日に設立50周年記念スポーツ大会がスポーツセンターなど8会場で8競技が行われました。総合開会式で渡部会長から「スポーツを原動力として、明るく健康な心と体をはぐくみ、まちづくりを進めていきたい」とあいさつがあり、引き続き、同協会の功労者として河村忠治（軽舞）さん、佐藤秋夫さん（上厚真）、都築紀昭さん（京町）に表彰状が手渡されました。

総合開会式終了後、町内外から集まった約500人の選手は、各会場で手に汗にぎる熱戦を繰り広げていました。



8競技が町内の各会場で一斉に行われた

奉仕の年輪30周年 厚真ライオンズクラブ

厚真ライオンズクラブが認証30周年を迎え、9月18日に総合福祉センターで記念式典・祝賀会が約250人の関係者が参列し行われました。

式典で大岩滋雄会長は「昭和49年に結成以来今年で30周年の節目。今後も会員相互に力を合わせて、地域とともに歩む奉仕活動、まちづくりに貢献するよう努めたい」と式辞を述べました。



式辞を述べる大岩会長

敬老者に記念品を贈る藤原町長



町にとって父と母 敬老会で楽しいひととき

町主催の敬老会が9月11日、総合福祉センターで行われ、80歳以上の敬老者488人の長寿と、結婚50年を迎えた25組の金婚を祝いました。民生委員とあゆみ会の協力により敬老会に対象者の213人が出席。100歳以上と90歳以上の長寿祝者をはじめ、米寿祝者、金婚祝者、一般敬老者に記念品が手渡されました。式で、藤原町長は「108年の厚真の基礎をつくっていただいた皆さんは、厚真の父であり、母です。今後も町が発展するために皆さんの経験を教えてほしい」とあいさつをしました。

3歳から民謡を始めた小寺聖夏さん(表町・8歳・中央小2年)がこの夏、ブラジルと中国に行き、民謡と三味線を披露しました。

ブラジルへは、「ブラジル北海道入移民85周年記念」親善使節団の一員として道副知事らと同行。聖夏さんの歌声などに遠い日本に思いをさせ、在住の人たちが涙を流す場面もあったそうです。

また、中国へ小学校建設のボランティアの一員として参加し、たくさんの人たちの前で舞台に上がり、かっさいを浴びました。

この夏世界をまたにかけて活躍した聖夏さんに拍手!

今夏、小寺聖夏さんがブラジル・中国で民謡披露



厚真ライオンズクラブ(大岩滋雄会長)が同クラブ認証30周年記念にあたり、町へ浜厚真野原公園サッカー場の管理棟を寄贈しました。

青少年の健全育成を願い寄贈されたもので、建築面積は46.37㎡。念願の管理棟に係者からは、「管理棟の寄贈で、サッカー場のより一層の活用を図れる」と喜びを語っていました。

ライオンズが管理棟を寄贈



暴風が吹き荒れた台風18号のつめ跡



被害を受けたデントコーン畑を見つめる山田さん

大型で強い勢力をもった台風18号が9月8日朝方から夕方にかけて、本町に強風(最大瞬間風速28・6m)をもたらし、各所で停電(570戸)や倒木、ビニールハウスなどの倒壊、潮風害による農作物への被害がありました。被害総額は8千3百7万円。(9月30日現在)畑などに被害を受けた山田稔さん(浜厚真)は、「このような暴風と塩の被害を受けた台風は昭和29年の洞爺丸台風以来。収穫を前にながかりしている」と語っていました。



浅井学園大学の学生が
厚中生徒に楽器演奏指南

北海道浅井学園大学で音楽を専攻している学生4人が9月10日本町を訪れ、ミニコンサートや厚真中学校(高橋啓夫校長)吹奏楽部の生徒たちに楽器演奏の指導をしました。スタードームで行われたミニコンサートでは、管弦楽器による、童謡赤とんぼなどのなじみの曲を披露し、また、厚真中学校では、楽器のパートに分かれ、生徒たちに楽器演奏の基本を指導しました。



中央小5年生が総合的学習
で稲刈りを体験

中央小学校(近藤茂校長)5年生28人が9月28日に幌内地区の田んぼで稲刈りを体験しました。幌内の大原博さんの田んぼを借りて、5月に田植え、2回の成長観察をへての稲刈り体験。JA青年部の方々の指導により、約3aを手際よく30分で刈り上げました。「腰が痛かったけど一生懸命刈りました」と子どもたち。3学期には、この米を食料として収穫祭が予定されています。